

2025年度 審判規則委員会基本方針について（案）

（公財）日本中体連バレーボール競技部審判規則委員会

JVAによる指針を踏まえ、中体連バレーボール競技部所属審判員の資質や能力、技術の向上による円滑な大会運営のため、「基本方針」と「方針達成のために」を以下の通り、審判規則委員会において確認した。

＜基本方針＞

1. 男女共同参画をさらに推し進め、若手審判員の発掘と育成を図るとともに、子育て世代等が活躍できる環境整備に努める。
2. 指導者による体罰など、生徒の人間性を損ねる発言や行為、チーム内の暴力やいじめの根絶に努める。
3. 選手・指導者を対象に、ルール及び取扱い等の周知・徹底を図り、正しい理解とルール遵守の醸成に努める。
4. 安定した技術とメンタル面の強化を図り、大会を通じ統一した判定基準でスムーズに運営できるよう努める。
5. 未来のバレーボール界を支える選手の育成を視野に入れ、全てのレフェリーが積極的に研修・経験を積み、審判技術の向上に努める。

＜方針達成のために＞

1. A級審判員は、後継者の発掘・育成に努めるとともに、男女関わりなく優秀で向上心のある人材を幅広く登用できるよう、大会等を活用し指導にあたる。
また、JVA 公認審判員としての自覚を促し、各ブロックにおいて全てのカテゴリーでの活動機会を広げるなど、S2・S1 レフェリー等を目指すことが出来るよう、積極的に働きかける。
2. 役員・競技参加者（チーム・スタッフ及び選手）に対する言動に十分注意し、相互の信頼関係を築くことができるよう努め、マナー・コントロールについては、審判団全員の問題として適切に対応する。
特に、指導者による体罰等については、その根絶に向けて大会競技役員と協働し、その指導と普及に努める。
また、「中体連審判員育成マニュアル」を改定し、コントローラーの役割を明確にすることにより、スムーズな大会運営に寄与する。
3. 部活動の地域移行等（クラブチーム化）が推進される今日、各ブロックと連携しながら、A級審判員だけでなく幅広く公認審判員、特に、若手審判員や選手も含めたチーム関係者等も対象とした研修会を実施するなど、強化委員会や指導普及委員会との連携も意識し、ルールの正しい理解を促進するとともに、フェアプレーの観点からスクリーンを戦略的に形成しないことを指導者に訴え、それを遵守する機運を醸成する取り組みを推進する。
4. 審判技術のレベルアップが、バレーボールの競技力向上に資することを踏まえ、ルール及びその取り扱いに関する理解を深めるとともに、公正・公平な競技運営を行うための審判技術とメンタル面の強化を図り、競技参加者や観衆等に不信感を与えない、毅然とした態度を保ちながら教育的な配慮をもったレフェリングを行う。
また、セカンドレフェリーや生徒役員の責務と適切な判定に関するレベルアップを図るため、全国的に統一された指導体制が構築されるよう、全ブロックでの研修会を開催するなど、各ブロックとの連携を強化する。
ファーストレフェリー：ゲーム全体を通して責任を持って説明ができる最終判定を行い、試合運営にあたる。また、全てのレフェリーのハンドリング基準を統一し、的確に判定する。特に、オーバーハンドを用いたプレーのハンドリング（キャッチ）について、同一の基準で判定を行う。
チームが戦略的にスクリーンを形成している疑いがある場合は注意を与える。
セカンドレフェリー：ポジションの反則について、サービスヒットの瞬間に、完全に入れ替わっているケースについて確実に判定すると同時に、ファーストレフェリーの補佐ができるよう心がけ、ラリー中の監督の言動や、ラリー間のベンチコントロールについて「試合中断の手続き」の手順及び取り扱いを十分理解し、スムーズに行えるようにする。
生徒役員：ルールを正しく理解し役割を果たすことが出来るよう、コミュニケーションを図りながら指導を行うなど、生徒役員の意欲や自主的、自発的な行動を促し、生徒役員が、「やってよかった」という達成感・充実感を得られる対応を心がける。「育成・指導マニュアル」の修正・更新を継続して行う。
5. 競技規則の精神を理解し、理論的・実践的な知識の習得に努め、正しい判定をするための目を養い、そのための基本的な動きや位置取りを常に研究し、審判技術の向上に取り組む。